

参考資料2

051204

授業メモ

11 月中のビデオを見ました。

4名の児童は、ビデオ録画を見ても、みんな本当に個性的で、よく動いています。それらの動きが指導者の期待する行動であるか否かをぬきに、この活発さは望ましいことで、子どもたちが授業でも、しっかりと自分を出していることの表れであると捉えることができます。さらに、■■■ちゃんと■■■くんは、その場の状況や他児童の動きに合わせて（適応的に）行動することも身につけていけば、さらに良いと思います。

まず、授業全体に関わる点で、提案があります。

授業の始めに、■■■先生が「これから音楽の勉強をはじめます」と号令をかけています。この役割を、後々、子どもたちの活動に移行することも考えられます。その場合、担当制か日直制の仕組みが考えられます。担当制では、特定の児童が毎日行いますので、その子だけ学習機会は多く、早く定着する点がメリットですが、その子にしか機会がありません。日直制では、日替わりで児童が変わりますので、児童の機会が等しく保障されますが、学習機会が4日に1度となりますので、学習が遅くなることがデメリットになります。どちらが望ましいかは、他の役割との兼ね合い（同じような機会での終わりの挨拶があります）等で、相談しましょう。日直が、始めと終わりの挨拶を両方するというのであれば、日直は1日、2回学習できます。

そこで、そのための準備が必要になります。現在のやり方を見ると、■■■先生が前に立ち、4人の子どもたちがシートの上に立ったまま、■■■先生の「これから音楽の勉強をはじめます」と号令をかけます。このやり方そのものは良いように思います。そして、■■■先生の号令に対して、■■■ちゃんは号令にあわせて「勉強をはじめます」などについて言っています。■■■先生の号令のかけ方を見ても、そのことを期待しているようにも見えます。その後、「れい」「おねがいします」と続けて号令をかけますが、おおよそ、■■■くんは号令の途中で、ビデオ台のところに走り、自分の役割をしようとしています。■■■くんにしても、ホワイトボードのところにいて、曲の絵カードを選ぼうとするなど、次の行動に移っています。何が言いたいかというと、先生（号令をかける人）と児童（号令に応じて応答する人）の「やりとり」が、しっかりとできていない状況が課題のように思います。今年の■■■先生との授業改善でも、このまま児童に役割を移行してしまっただけで、すったもんだした経験があります。まずは、指導者主体で、きちんと「指導者と子どものやりとり」を確立してから、「子どもと子どものやりとり」に移行したほうが、子どもにとっての負担もかかりにくくなります。そこで、以下のような課題の流れを提案します。

- (1) ■■■先生が前に立つ。
- (2) 子どもたちは自分のシートの上に立つ
- (3) 全員がシートの上に立ったら（確認して）、■■■先生が「これから音楽の勉強を～」と号令をかけます。このとき、子どもたちがついて言うことについては、それほど求めなくても良いように思います。号令をする人（今は■■■先生）の役割行動だからです。
- (4) ■■■先生が「れい」という。
- (5) 他児童が「おねがいします」という